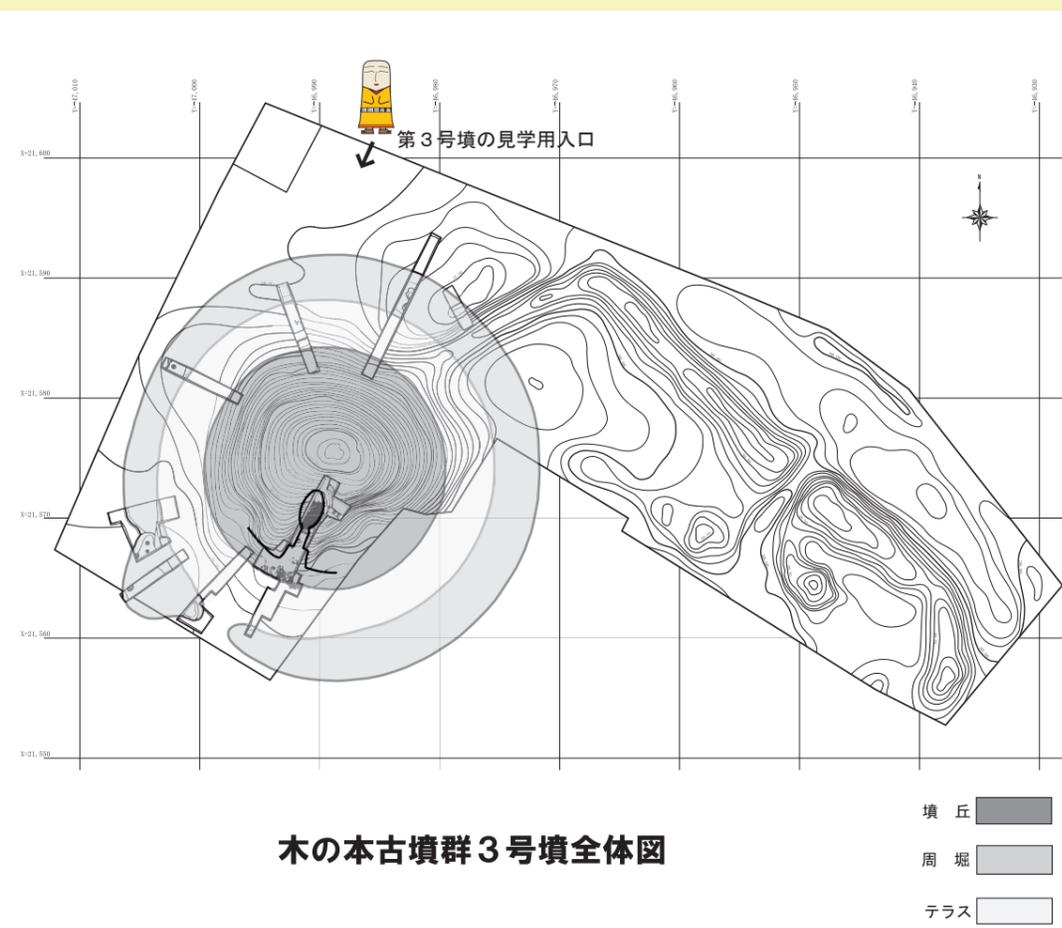




# 市指定史跡 木の本古墳群第3号墳



木の本古墳群は、原郷から東方にかけての台地縁辺に分布する群集墳です。古墳時代後期の5世紀末から7世紀前半にかけて、直径20～30m規模の円墳を中心に数多くの古墳が造られたと考えられます。現在墳丘の残る古墳は11基あり、市指定文化財になっています。この第3号墳は、直径20m、現存墳頂までの高さ3.8mを測ります。確認調査により、7世紀前半のもので、横穴式石室を持つことが分かりました。なお古墳には、土壘(市指定史跡 木の本壘跡)が取り付いています。詳細は分かりませんが、中～近世のものと思われます。



石室の基底部  
(奥壁側から)



確認調査で出土した  
銅釧、耳環(上)、土師器(下)

木の本古墳群の東端には、後の時代の7世紀後半に幡羅郡役所(幡羅遺跡)が造られます。3号墳から東に約1.8km行ったところに幡羅遺跡は広がっています。

